

第2回六角川学識者懇談会

平成23年 4月28日

武雄河川事務所

第1回学識者懇談会での主な意見

- 他河川のような外水1/30、内水1/10といった目標設定について疑問。
- 内水対策など、河川管理者だけで取り組むには限界がある。対策については流域全体で取り組んでいく姿勢が必要。
- 治水整備メニューの検討プロセスについて、再整理すべき。
- 整備メニューの適応可能な項目を抽出するための議論をもっとしっかりやるべき。
- 一度議論した内容も審議の経過如何によっては再度議論できる枠組みで進めるべき。
- 治水整備メニューの概略評価に、地盤沈下対策(地下水採取の抑制)、クリークの水位低下を内水対策として追加すべき。
- 一つの対策だけでなく組み合わせでの評価も必要である。
- 河口域、上流域等区分毎の評価が必要。
- 治水対策については動植物や海域への影響を評価に加えるべき。

六角川水系河川整備計画策定までのプロセス (六角川水系学識者懇談会における議論のプロセスとして)

